〔昆陽漫錄〕絲煙

前年或人西土のきざみ煙草一包を惠む、その包内の小票に云く、福建陳元禮、向在浦城西關馬頭開張、特選上々項葉佳制生烟、發販四方、味甘絲明、色鮮觔足、向有異路低烟、冒稱浦城者多、但買者眞假難辨、今本號特設包内小票、凡賜顧者、請認富有圖記、庶不致冒稱、眞假辨矣、謹白と、何處にても後世ばことみな便利なるを好むなり、且そのきざみ甚だほそきゆゑ、絲煙と云ふなり、

〔蜀山百首〕戀

うづみ火のしたにさはらでやはらかにいひよらん言の葉烟草もがな

〔嬉遊笑覽十上飲食〕一種嗅たばこと云もの有り、其器物紅毛の細工にて、犀角瑪瑙などに金銀を飾り、精巧に造れる物あり、其形圓扁にして、昔の薄き鬢水入の如く、蓋は蝶つがひなり、

〔蒿錄下〕附考並餘考

玄澤氏曰答跋菰之傳種乎歐羅巴洲也、距今不甚遠矣、略○中古老相傳、此物傳於我邦、在元龜天正際、顧是波爾杜瓦兒人所傳、何者按白石先生采覽異言、西蕃之來、自波爾杜瓦兒國始到于豐之神宮浦、實爲天文十年辛丑秋矣、十二年癸卯、又泊于多禰島、爾後來我西鄙、歲歲不絕、元龜元年庚午春、至肥前國、求以互市、置場於彼杵海口、今長崎港卽此、由是觀之、其初傳之、果波爾杜瓦兒國人、而在元龜天正之際者、可以知也、

〔落穗集追加六〕多葉粉初りの事

問曰、世上の貴賤上下共にもてはやす多葉粉の義は、上古來は無之物にて、近來のはやり物に有之由、其元には、如何聞き被及候や、答曰、我等若年の比、或老人の物語り仕るは、多葉粉と申者は、古來は無之所に、天正年中の切支丹宗門と申事の世に廣り候時節より、多葉粉も初る也、然ば元來は無之所、南蠻國の土產の草抔にても有之や、○下略

烟草傳來